

イギリスのあるビジネス雑誌で、世界で最もダンディーな経営者と呼ばれたモンテゼムロ会長から大変な激励をいただきまして大変嬉しく思います。

今、モンテゼムロ会長のお話を伺いながら、2年前にピリンファリーナのデザインセンターに立ち寄ったことを思い起こしました。これはトリノオリンピックの時のトーチリレー、いわゆる聖火リレーのトーチをデザインしたということで話を伺った訳であります。実際にトーチを見させていただいて、まさに感銘を受けました。私オリンピックのトーチリレーのランナーは何度か務めたことがあります。一般的にトーチは真っ直ぐな筒な訳なのですが、トリノのピリンファリーナのデザインしたトーチは、かなりカーブのかかったブルーの美しいトーチでした。そしてお話を伺った時に、ランナーは立ち止まっていないと、走っているのが炎が後ろに流れていくと。いわゆるトーチと炎が一体となったデザインを我々は考えたということでした。これこそが感性だと思いました。先ほどカーデザイナーの奥山さんからもお話ありましたが、この感性はまさにイタリア人ならではのものだと思いますし、我々日本人もこの感性というものをもっとイタリアの皆さんから教えていただいて学ばなければいけない、そんなことを感じた次第でございます。

さて今回の日本イタリアビジネスグループ会合におきましては実に様々な議論がなされ、今後の日本イタリア間のビジネス交流の活発化の糸口になったのではないかなという風に思っております。特に本日の官民合同のセッションにおける議論におきましては、開会のご挨拶でも申し上げましたが、日欧での経済連携での緊密化に向けた議論を後押しするものではなかったかという風に思っております。

今回の会合を通じて、日本イタリア両国間にはまだ日本EU間では表面化していない課題が表面化した、存在するということを確認できたという風に思っております。この二国間の対話は多国間対話では表面しない課題を表面化させ、多国間の対話に向けても問題提起していく上でも大変重要なものであったかと思っております。いずれも今後の日本ヨーロッパ間の経済連携協定の議論を中身のあるものにするためにもこういった問題提起が必要ではないかと思っております。

また今回この開催地ベネチアは水の都と呼ばれておりますけれども、近年の地球温暖化を一因とする水面上昇が、この美しい水の都を脅かしているということも伺っております。自然災害は日本も多いですし、イタリアも多いと伺っております。この美しい水の都を守るためにも、積極的に地球温暖化対策、あるいは自然災害対策をいかに最小化していくか、両国で力を合わせていくべきではないかなと思っております。

「ローマは一日にしてならず」という言葉がございます。日本とイタリアの関係もこれまでいろいろな障害がありましたけれども、それを乗り越えて改革を行いながらこれまでの関係を築き上げて参りました。ローマ帝国があれほど強力であったように、我々日本もイタリアと障害を乗り越え、様々な改革を繰り返しながらより強力な関係を築いていけるのではないかなと感じさせていただきました。

最後になりますけれども、私が 20 年前初めてイタリアにやって来ましたのは、アジアボという地域、このベネチアにも寄らせていただきました。その時初めて学んだイタリア語というのは「カンターレ、バンジャーレ、アモーレ」この言葉でした。そしてその意味を知った時に大変素晴らしい言葉だなと思ひまして、その後私の心の中にずっと大切にとっている言葉であります。私もいろいろと辛い事、残念な事ある時が多いですけれども、この言葉をいつも思い起こしながらこれまで困難を乗り越えてきたつもりでございます。是非、両国間においてもこれからの関係を深めていく中で、常にハッピーな関係を築いていければなと思ひますし、先程の言葉のような精神を大切にしながら両国間の発展を期待しているところでございます。

最後になりますけれども、ザッパ、福原両会長はじめ関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表しましてご挨拶を返させていただきます。ありがとうございました。